



由並小 四年 對馬 桃吾



郡中小 五年 吉田 唯花

今年度も人権啓発・人権意識の高揚を目的として、人権啓発作品を募集したところ、たくさんご応募いただきました。誠にありがとうございました。

応募数は、小学生269点、中学生68点、高校生15点、成人182点、総数543点でした。最優秀、優秀に輝き入賞された皆様おめでとうございます。



双海中 一年 西嶋 来実



南山崎小 六年 森下 菜羽

人権啓発ポスター 最優秀作品



伊予中 二年 桂城 茉莉愛



伊予中 二年 菊池 陽葵



みんなオオバコのように

北山崎小学校

四年 三河井 わかば

花も
動物も
人も
地球上の生き物は
みんな同じ。
いじめられたらいやになる。
みんな、同じだから
オオバコのように
ふまれても立ち上がる
強い気持ちが大切。
いじている人は
自分も心がぎずついている。
人もしていると言って流されている。
相手の気持ちに気付かない。

だから、みんな
オオバコのように
いじめはしないという
強い気持ちをもってほしい。
オオバコが
種を人間のくつにつけて
遠くへ運ぶように
みんなに
強い気持ちをとどけてほしい。
いじめられている人のことを
考えてみよう。
いやで
学校に行きたくなくなる。
そんないじめを
つづけていると
いじめは
もつと広がっていく。
いじめをする前に
よく考えてみよう。
わたしは
いやなことを言われて
ないいているときに
「元気を出して。」と



人権ポスター 優秀作品



郡中小 四年 田島 ひまり

はげまされたり
「気にしないで。」と
やさしくされたり
いろいろな人にささえしてもらった。
そして
わたしは
いじめに出会ったとき
「やめな。」
ということが
言えるようになった。

人の心

郡中小学校

五年 宮田 彩花

人の心は、ガラスみたいにもろい
悪口を言われると
心のガラスにひとつ、きずがつく
何回もくり返し言われると
ガラスはついに割れてしまう
だから、何も言われないと
ガラスは割れたまま
だけど
「だいじょうぶ？」
「どうしたの？」
と、やさしく声をかけられると
割れたガラスは、どんどんくっついていく
完全にくっついたとき
その人に笑顔がもどる

十二歳

伊予小学校

六年 仲島 里乃妃

あの子は私と同じ十二歳
あの子は私と同じ女の子
あの子も同じ地球に住んでいるのに
あの子は十二歳で売られていった
もっと勉強したいよね
もっと遊びたいよね
夢いっぱい叶えたいよね
でも
あの子は私と違う
十二歳でお母さん

あの子も私と同じ十二歳
あの子も私と同じ女の子
あの子も同じ日本に住んでいたのに
あの子は二歳で被爆した
もっと走りたかったよね
もっと遊びたかったよね

夢いっぱい叶えなかったよね
でも

あの子は私と違う
十二歳で白血病

あの子は私と同じ十二歳
あの子は十一歳でハンセン病
あの子も同じ愛媛に住んでいたのに
あの子は十一歳で故郷を去った
もっと家族といえなかったよね
もっと友達と遊びたかったよね
夢いっぱい叶えなかったよね
でも
あれからずっと
みんなとはなれて島暮らし

あの子のことを知ったとき
心がとても痛かった
知るのとはとてもつらいけど
わたしはあの子を忘れない

チイサナセカイとオオキナセカイ

中山中学校

三年 高木 聡太

夏の青い空に浮かぶ雲は真っ白で
風に乗って好きなところに飛んで行く
となりの子とはいい距離感で
つかずはなれず
みんな仲良さそうに流れていく

手に収まるチイサナセカイで
ムシしたとか言い争うなんて
ホント小さな幼いこと
いま十四歳のこの時間なんて
長い人生の中のほんの一瞬
過ぎ去ったあとから見てみれば
きつとみんなの笑い話

画面の中のちょっとした言葉や会話を
気にして生きてくなんでもつたいたい

相手を見て話して、それで笑えたなら
みんないい仲間だね

十四歳のいまこの瞬間を
互いのことを思いやり
尊重して生きていこう
仲間ハズレなんでもつてのほか
絶対独りになんてしないから

ほら、たまには青い空を見上げてさ
チイサナセカイから目と心を切り離して
もっとオオキナセカイに目を向けよう
そしたら、きつと気付くから
あなたは独りじゃないってことに



郡中小 四年 板井 沙羅

人権ポスター

優秀作品

人権作文

最優秀作品

立場がちがえば

郡中小学校

四年 池田 桜望

私は、最近人の気持ちについて難しいと思うことがよくあります。

私には、七十五才のおばあちゃんがいます。いつもニコニコしていて、だれにでもすごく優しく、言葉の一つ一つがとてもあたためる感じが去年の冬、「がん」という病気になることが分かりました。私は、病気のことばかりよく分からないけれど、とにかくおばあちゃんは会うたびに、どんどん、どんどんや

せていきます。だから、その変化をみるだけで、病気の強さは分かりました。薬のせいで、気分が悪く、起きあがれない日や、ご飯を食べられない日が増え、手もふるえ始めています。かみの毛もなくなりました。それでも、ニコニコ、やさしい言葉をかけてくれて、私の話をずっと聞いてくれます。そんなおばあちゃんがお母さんと長い話をしているのを聞いたことがあります。いつも話を聞いてくれてばかりのおばあちゃんが、その時はずっとしゃべる側になっていました。その話の中ですごく心に残っていることがあります。それは、周りのだれかがおばあちゃんに優しく、あげまじとしてかけた言葉で、いじわるな言葉や、キツイ言葉ではないのに、おばあちゃん

んはつらかった。心が重かった。という話でした。私は、この話を聞いて、とてもショックでした。

「それなら、私が今までに言った言葉でもおばあちゃんはずついていたかもしれない。私がおばあちゃんを守ってあげる、笑わせてあげると思ってたことでもきずついていたかもしれない・・・」

だから、次に会ったときには、ゆつくり話してみました。それで分かったことは、おばあちゃんだって声をかけてくれた人に感しゃしているし、その気持ちがあうれしかったこと。でも、今のおばあちゃん

は不安でいっぱいです。きずつきやすくなっているということ。私は、そのとき思いました。気付いていないだけで、周りには、同じような

思いをしている友達がいるかもしれない。そう思うと、相手の立場や気持ちを考えて声をかけたり、言葉を選んだりすることは本当に大切なことだと思います。一人一人性格も考え方も受け止め方も違うけれど、相手を思う気持ちがあれば、もつと何かが変わる、もつと何かが良くなる、もつとだれかが過ごしやすくなるのだと思います。だから、まずは自分からその行動を取っていいと思います。

「そばにいてくれるだけでいいよ。」

おばあちゃんが伝えてくれた、この言葉が私は大好きです。



笑顔の力

伊予小学校

五年 重松 美玖

私はみんなの笑顔が大好きだ。笑顔は自然とみんなを幸せにしてくれる。でも、私は笑顔を百パーセント信じることができない。最近、疑う気持ちが強くなっていた。

学校の授業で人権について考えた時、担任の先生から、「人権とはすべての人が幸せに生きるための権利です。そのために自分にできることを考えることが大切です。」と言われて。私にできることって何だろう。みんなが幸せになるってどういうことだろう。すぐに思い付いたのは、「笑顔」だった。みんなが笑顔でいることが一番幸せ。簡単なことだと思った。でもその後、や

はり難しいと思うようになった。それは、笑顔について私を感じていた不安が原因。本当に笑ってるの。相手をばかにしてるんじゃないの。考えれば考えるほど分からなくなってきた。

私が幼稚園に通っていた時、シヨックなことがあった。それは、親友が他の友達にばかにされたことだ。

「身長低いのに、体重は重そうだね。」

私の親友は、笑って答えた。

「ふふっ。あなたは身長が高くて、体重も軽そうでうらやましいな。」

なんで笑えるのと私は思った。相手の子に腹が立ったことを今でもはっきり覚えていて。でも、それ以上に私の親友の顔が忘れられない。苦しく笑うその笑顔は、少しも幸せそ

うに見えなかった。

すいぶん前のことなのに、この出来事を私が覚えているのは、腹が立ったからではない。その後の親友の笑顔が印象に残っているからだ。私は、親友にすぐに声をかけた。

「大丈夫。さっきのこと気にしなくていいからね。楽しい遊びを考えたんだ。いっしょに遊ぼう。」

私の言葉を聞いて、さっきとは全くちがった笑顔を親友が見せてくれた。その顔はともきれいだった。

今、私たちの生活は、コロナのえいきょうもあり、マスクを付けて生活している人が多くなっている。マスクを付けていると私の大好きな笑顔を見ることができない。なんだがさみしい気持ちになる。きっとそれは、みんなも同じ

はずだ。だから私は、たとえばマスクを付けていても、笑顔でいるように心がけている。さみしいって思う前に、私の笑顔の力で少しでもみんなを元気にすることができると思うから。

今回人権について考えてみると、私の大切な人が苦しんでいる姿を思い出し、笑顔の大切さに気付いた。だれにとっても大切な人はいると思う。みんなが幸せにくらす世の中になるってすごく難しそうに思ったけど、大切な人の笑顔をみんながちよっとずつ守っていけば、世の中はきっと幸せでいっぱいになる。そんな「笑顔の力」を私は信じたい。



一人一人の価値

郡中小学校

六年 大道 拓斗

人には一人一人違った価値があると思います。お互いにそれぞれの価値を認め合うことが、常識として扱われていると言われています。ぼくは、この「人の価値」について自分自身で考えてみたいと思います。

人の価値について考え始めたのは、五年生の時、授業でハンセン病について学んだことがきっかけでした。価値なんて難しく、最初はよく分かりませんでした。しかし、このことを最近何となく考えることが多くなったのです。「きみ江さん」という本を読みました。無理解のせいで、たくさんの辛い現実と戦って

きたきみ江さん。最後に、東日本大震災のことを、

「福島の人々が、放射能がうつると言われいじめられている。何も悪いことをしていないのに。私たちが受けてきた差別と同じ。どんなに時代が移り変わっても、こうした差別が形を変えて残っているのならじっとしていられない。自分たちだけで十分。」

と、書いていました。そう、ハンセン病自体はなくなっても、それより根深い無知の偏見という現状は変わっていないと改めて考えさせられました。

この本を思い出してみると、きみ江さんは、ずっと戦ってきた差別を通して、他の人と同じような差別で苦しんでいると、いてもたってもいられないと感じる「優しさ」や「思

いやり」の気持ちをもったのだなあと思います。このような気持ちをもち合わせているだけで、素晴らしい価値だと思いました。人はどんなことがあっても、人としての価値を決して無くしてはいけなさんだと気がきました。そのように、辛いことがあっても、優しくいられる人は、強く良い人だと思います。

人にはだれも一つは優れたところが必ずあると思います。運動ができたり、器用だったり、人のことをよく考えてくれたり、色々なことがあります。ぼくの価値は何だろう。きつと気づいてないだけかもしれない。そんな自分を生かすには、いいところをたくさんもつといいと思います。悪いことに自分の力を使うことが、人の価値ではありません。

ん。そうならないためには、周りの人の良いところを認めて、自分もよいと思うことをやってみるといいと思います。すると、自分も持っている価値が多くなります。弟に優しくしている友達を見て、ぼくもしてみると、自分の中で優しさが増えていった気がしました。

自分も持っているすばらしさを大切にして、周りの人のすばらしいところも認めていくと、人の価値が大切にされる世の中になり、それぞれの人としての価値が増えていくと思います。そのくり返しで、差別がなくなり、苦しいことや辛いことが少しずつ減って、変わりに笑顔が増えていくと感じました。ぼくは、自分や周りの価値を大切にしていきます。

私の気持ち

伊予中学校

二年 山口 葉優花

私は、順番にまわってきて当てられるタイプの授業が苦手です。当てられると分かっていても上手く答えられなかったりするからです。「早く答えろよ」「授業を止めるなよ」という声や視線を、直接、言われるわけでも、送られるわけではないのに感じています

先日、人権集会がありました。私は、人権委員として参加しました。人権委員会のメンバーが頑張っている中、私は輪にうまく入れず、成り行きに任せていました。本番直前のリハーサル。たった少しのセリフさえ言えず、「何で言わないの」といった空気を勝手に感じて、苦しくなりました。結局、本番は他のメンバーにセリフを言ってもらい、ただただ立っているだけで

した。見ている人からも、「何もしていないよな」という空気を感じてしまい、前を向くことができませんでした。「みんなができていないのに。昔は普通にできていたのに。何でできないの。やろうとしてないだけなのでしょ。みんなから、かまってほしいだけなの。」という声が、ついに自分の心の中からも聞こえてくるようになり、つらくなりました。

しかし、この辛さよりも、もっと苦しい思いをしている人がたくさんいるとも思います。私自身のささいな問題と一緒にするのはおかしいかもしれませんが、苦しい思いをしている人々を考えることで自分自身を見つめ直すことにもつながりました。

ニュースで、ある芸能人が誹謗中傷等から自殺を選択したというのを知りました。私は、誹謗中傷をしている人たちに問いたいのです。「その人が、あな

たたちを怒らせるような、悪いことをしましたか」と。自由に生きることに、自由に生きたいと思うことは、そんなに悪いことでしょうか。幸せの価値観は一人ひとり違い、普通の価値観も違ふと思います。みんなに合わせるものが普通ではないと思います。普通とは何なのか考えさせられます。人権問題も同じだと考えます。

みんな同じ人間です。生まれた地域が違っていても、障がいがあっても、性別が違ってても、それぞれの個性があるのが当たり前です。では、なぜ人は同じ人間という仲間を傷つけてしまうのでしょうか。一人ひとり、違ふ考え方があります。意見が合わなくて当然です。しかし、そのことが、仲間を傷つけていいことにはなりません。

私は、友だちや先生、家族など、たくさんの人に助けてもらっています。私は、友だちや

先生、家族が大好きです。集会の際、黙り込んでしまい、自身に押しつぶされそうになり、泣いていた私のそばにいてくれた友だちや、集会後に褒めてくれた先生など、支えてくれる家族や周りの人に感謝しかありません。苦しみの中で生きている私たちだからこそ、どんな場面でも支えが必要です。

九月一日は、子供の自殺が一年で一番多くなる日と聞きました。辛かったら、登校しないという選択肢もありだと思えます。しかし、私は、支えられていることを胸に、もう少しだけ前を向いて頑張っていきたいと思います。そして、私が誰かの支えになればいいなと思います。



人権標語

最優秀作品

◆ たくさん わらって

そだてる えがおのはな

南山崎小 一年 池本 航

◆ だいじょうぶ

どんなあなたも すてきだよ

郡中小 二年 竹岡 由莉奈

◆ もらったやさしさ

次はだれかに おすそ分け

由並小 三年 島田 心音

◆ そうそれだ！

あなたのえがお ホームラン

郡中小 四年 仲田 航

◆ あの子とぼく

ちがう個性が 楽しいな

北山崎小 五年 浅野 冬偉

人権ポスター 優秀作品



郡中小 六年 瀧本 日和



郡中小 五年 兵頭 杏南



北山崎小 五年 鶴岡 夕愛希

◆ 私から

命を守る 声掛けを

伊予小 六年 友澤 眞生

◆ 差別なく

その人らしさが 光る社会

港南中 一年 横山 澄玲

◆ その投稿

一旦ストップ 考えて

港南中 二年 片上 詠太

◆ 変えられる 未来と偏見

私たちで

伊予中 三年 池内 梨葉

◆ 伝えなきゃ

心の声は 届かない

伊予農高 三年 北本 菜都

◆ 見直そう 自分のものさし

変わるのとは他人ではなく 自分の心

伊予小PTA 原田 真奈美

人権ポスター 優秀作品



伊予農業高校
一年 西園寺 萌衣



伊予農業高校 一年 池内 洸貴



郡中小 六年 矢野上 沙奈

優秀入賞者

人権標語の部（一般）

上野地区公民館	翠小	由並小	下灘小	佐礼谷小	中山小	郡中小	郡中小	北山崎小	南山崎小	南山崎小
木村	PTA	PTA	PTA	PTA	PTA	PTA	PTA	PTA	PTA	PTA
英史	吉永	大橋	金山	福岡	上岡	重松	明関	山本	城戸	仙波
	佐知子	謙伍	亜季	夢	稔恵	京子	彩	磨美	敬考	直子

人権標語の部（児童・生徒）

伊予農高	伊予農高	港南中	港南中	双海中	港南中	港南中	港南中	中山小	郡中小	翠小	佐礼谷小	下灘小	郡中小	郡中小	北山崎小	郡中小	北山崎小	伊予小	郡中小
二年	一年	三年	三年	二年	二年	一年	一年	六年	六年	五年	五年	四年	四年	三年	三年	二年	二年	一年	一年
富丘	西村	富永	福田	栗坂	定井	原田	大中	松本	井上	金沢	福岡	二宮	大西	山本	石丸	法兼	中村	宮岡	丸木
若葉	晶	優芽	真央	侑愛	蒼波	凜音	堅心	怜大	絆菜	龍醒	紬	紗穂	凜佳	琴心	悠乃	煌真	心春	希歩	花澄

人権作文の部

やさしい場所に

伊予小 四年 清水 想空

いじめを止めるには

下灘小 五年 金山 蒼依

当たり前の平和を当たり前のままに

翠小 六年 奥田 樹

「大丈夫じゃないって

言ってもいいですか」

双海中 一年 川西 伴典

人権詩の部

みんなちがっているからいい

北山崎小 四年 田中 星香

笑顔の理由

伊予小 五年 坪内 咲都

私の気持ち

伊予小 六年 高本 侑李

魔法のことは

港南中 二年 飯田 空武